

昭和村第6次総合計画  
SHOWA未来プラン2034

ともにつくりよう 輝く昭和村

総論・基本構想

(案)

令和7年2月

昭和村



# 目次

総論	1
第1章 「SHOWA未来プラン2034」とは	2
1 総合計画とは何か	2
2 計画策定の目的	2
3 計画の構成と期間	3
4 計画づくりで重視したこと	3
第2章 昭和村の特性と課題	4
1 村の概要	4
2 生かすべき強み	9
3 踏まえるべき社会情勢	13
4 反映すべき住民ニーズ	16
5 村づくりの課題	23
基本構想	27
第1章 昭和村の将来像	28
1 村づくりの基本姿勢	28
2 将来像	29
第2章 計画の体系と方針	30
1 計画の体系	30
2 基本目標ごとの方針	31



# 総論

# 第1章 「SHOWA未来プラン2034」 とは

## 1 総合計画とは何か

総合計画とは、地方自治体（都道府県・市区町村）が、将来を見据え、どのようなまちになることを目指すのか、そして、そのために、どのようなことをするのかをまとめたものです。

総合計画は、地方自治体がつくる様々な計画のうち、一番上に位置する「最上位計画」であり、すべての分野の基本となる最も重要な計画です。

## 2 計画策定の目的

本村では、これまで5次にわたる総合計画を策定し、計画的な村づくりを進めてきました。

昭和村第5次総合計画では、『みんなでつくろう 元気な昭和村』という将来像を掲げ、これを実現するための様々な取り組みを住民とともに積極的に進めてきました。

この間、人口減少の急速な進行、大規模な自然災害の発生、デジタル化の進展をはじめ、社会情勢は大きく変化しているほか、これらに伴い、住民ニーズも大きく変化しています。

こうした社会情勢や住民ニーズの変化に的確に対応しながら、将来にわたって持続可能な昭和村をつくっていくため、新たな村づくりの指針として、昭和村第6次総合計画を策定します。

なお、本村では、人口減少が進む中、これまで2期にわたる総合戦略を策定（昭和村第2期総合戦略は昭和村第5次総合計画後期基本計画と一体的に策定）し、人口減少対策を進めてきました。

本村では、“村づくりの重点＝総合戦略（人口減少対策）”ととらえており、今回も、昭和村第6次総合計画前期基本計画と昭和村第3期総合戦略を一体的に策定することとします。

## 3 計画の構成と期間

### 基本構想

本村が10年後に目指す将来像と、それを実現するための計画の体系や方針などを示したものです。

計画期間は、令和7(2025)年度から令和16(2034)年度までの10年間とします。

### 基本計画（総合戦略含む）

基本構想に基づき、今後行う主要な施策等を示したもので、社会情勢や住民ニーズの変化に対応できるよう、前期・後期にわけて策定します。

前期基本計画が令和7(2025)年度から令和11(2029)年度までの5年間、後期基本計画が令和12(2030)年度から令和16(2034)年度までの5年間とします。

### 実施計画

基本計画に基づき、今後行う具体的な事業や事業費等を示したもので、別途策定します。

計画期間は、3年間とし、毎年度見直しを行います。

## 4 計画づくりで重視したこと

### ■住民が読んでわかる計画づくり

計画への住民ニーズの反映を重視するとともに、住民目線に立った、シンプルでわかりやすい構成・内容・表現とし、住民が読んでわかる計画として策定しました。

### ■強みを生かす計画づくり

本村の魅力をさらに高め、住民が住み続けたい、村外の人が移り住みたい村づくりを進めるため、本村の強みを磨き上げ、それを生かす、前向きな計画として策定しました。

### ■行財政運営の効率化につながる計画づくり

行財政改革との連動、施策・事業の選択と集中、計画の検証・改善が容易に行える仕組みづくりなどを行い、行財政運営の効率化につながる計画として策定しました。

## 第2章 昭和村の特性と課題

### 1 村の概要

#### (1) 位置と地勢等

群馬県の利根沼田地域の最南端に位置し、赤城高原が広がるとともに、片品川・利根川が流れる。

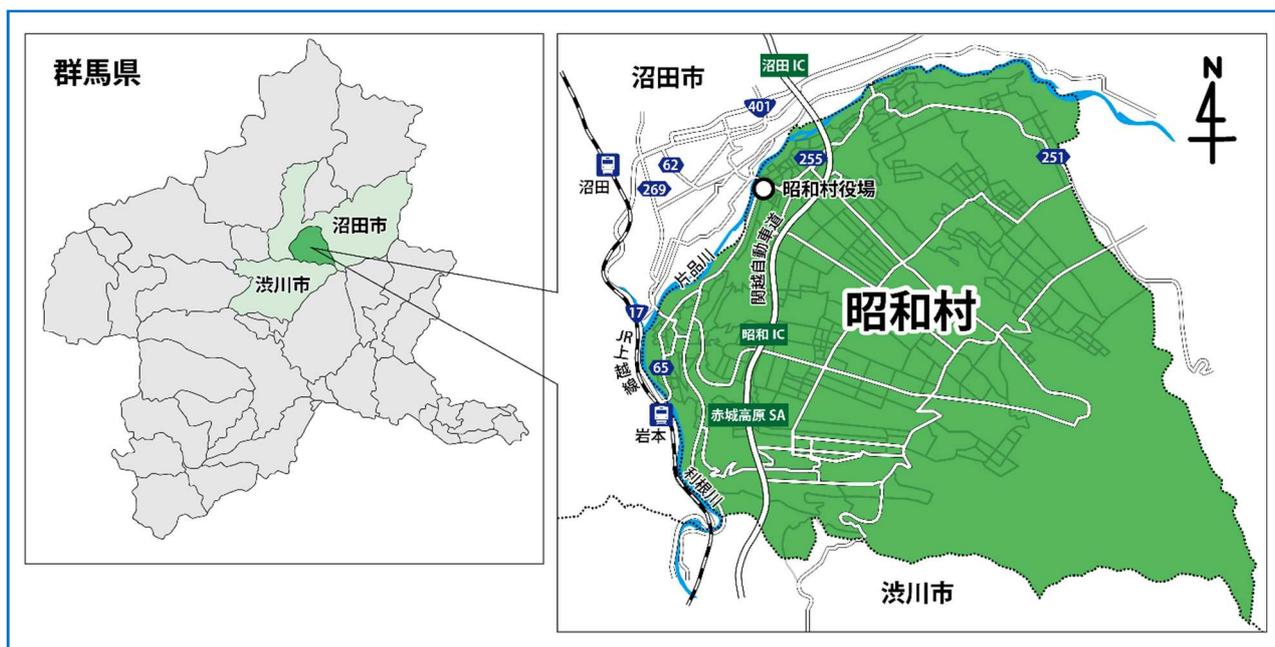
本村は、東京からおよそ120km圏にあり、群馬県の北部に広がる利根沼田地域の最南端に位置し、東・西・北は沼田市と、南は渋川市と接しています。

東西10.8km、南北9.8km、総面積64.14km<sup>2</sup>の扇状の形をした村で、標高は260mから1,461mと高低差が大きく、500mから800m付近は緩やかな赤城高原が広がります。

また、1級河川の片品川と利根川が流れており、北東から流れる片品川は、北西から流れる利根川に合流して南西に進み、関東平野へと流れています。

平均気温は11.6℃で、1月下旬から2月中旬にかけては-5℃程度まで下がり、7月下旬から8月上旬にかけては35℃前後まで上がります。

昭和村の位置と概要



## (2) 村の歩み

江戸時代には、沼田街道の宿場として栄えた歴史を持ち、昭和 33 年に、久呂保村と糸之瀬村が合併して昭和村が誕生した。

「平成の大合併」の時代においても、合併せずに自主自立の道を歩むことを決定して現在に至り、令和 10 年には、70 周年を迎える。

本村は、縄文時代から人々が住んでいたことがわかっており、江戸時代には、利根川沿いの地域が沼田街道の宿場として栄えた歴史を持ちます。

明治時代以降の歩みをみると、明治 22 年の町村制施行により、森下村・椽久保村・川額村の 3 か村が合併して久呂保村として、糸井村・貝野瀬村が合併して糸之瀬村として発足し、その後、昭和 23 年に、久呂保村が勢多郡赤城村（旧敷島村）の一部を吸収合併しました。

そして、昭和 33 年に、久呂保村と糸之瀬村が合併して昭和村が誕生し、その後、昭和 36 年に、利根村（現在沼田市利根町）の大字生越を境界変更により吸収しました。

その後、「平成の大合併」の時代を迎えましたが、平成 15 年に、市町村合併住民アンケートにより合併せずに自主自立の道を歩むことを決定して現在に至っており、本計画の計画期間中の令和 10 年には、昭和村施行 70 周年を迎えます。

## (3) 人口

### ① 総人口

令和2年の国勢調査で初めて7,000人を下回った。  
これまでの推移をみると、減少が加速してきている。

国勢調査による本村の総人口（令和2年）は6,953人となっており、初めて7,000人を下回りました（群馬県移動人口調査では令和6年6月1日現在6,750人）。

平成27年から令和2年の直近5年間の減少率は5.4%で、これまでで最も高く、減少が加速してきていることがわかります。

減少率を国・県・利根沼田地域平均と比べると次のとおりで、利根沼田地域では低い方から2番目ですが、全国平均や県平均を大幅に上回っています。

なお、本村は、総人口に占める外国人の比率が比較的高い村で、令和2年現在、6.3%（436人・全国26位）となっています。

#### 総人口と減少数・減少率

	人口（人）	減少数（人）	減少率（%）
平成12年	7,878	84	1.1
平成17年	7,783	95	1.2
平成22年	7,620	163	2.1
平成27年	7,347	273	3.6
令和2年	6,953	394	5.4

資料：国勢調査

#### 国・県・利根沼田地域との比較（直近5年間の減少率が低い順）

	平成27年の人口（人）	令和2年の人口（人）	減少数（人）	減少率（%）
川場村	3,647	3,480	167	4.6
昭和村	7,347	6,953	394	5.4
沼田市	48,676	45,337	3,339	6.9
片品村	4,390	3,993	397	9.0
みなかみ町	19,347	17,195	2,152	11.1
利根沼田地域	83,407	76,958	6,449	7.7
県	1,973,115	1,939,110	34,005	1.7
全国	127,094,745	126,146,099	948,646	0.7

資料：国勢調査

## ② 年齢（3区分）別人口

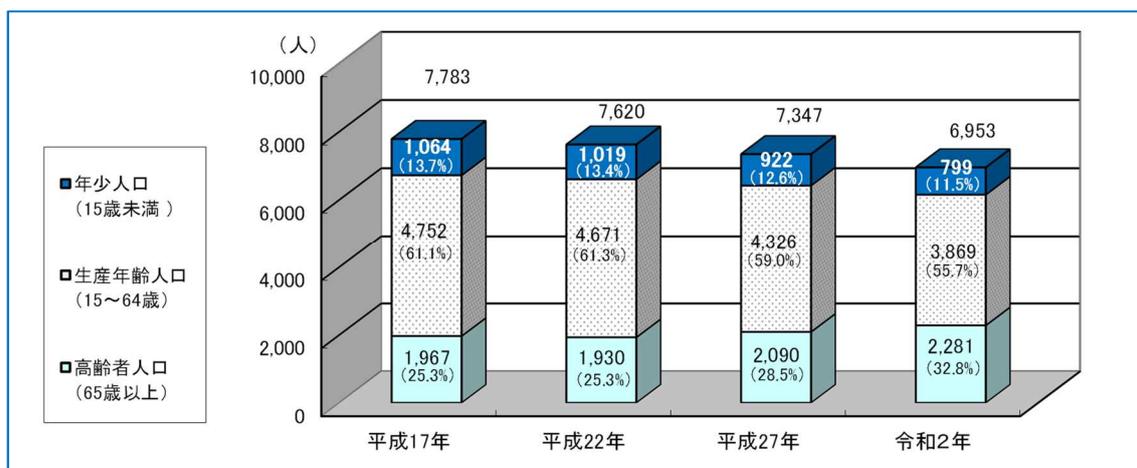
年少人口・生産年齢人口の減少と、高齢者人口の増加が目立つ。

また、全国平均・県平均よりも高齢化が進んでいる。

年齢（3区分）別の人口は次のとおりで、これまでの推移をみると、15歳未満の年少人口・15歳～64歳の生産年齢人口の減少と、65歳以上の高齢者人口の増加が目立っています。

また、それぞれの比率（令和2年）を国・県・利根沼田地域平均と比べると次のとおりで、年少人口比率は全国平均や県平均をわずかに下回る程度ですが、高齢者人口比率は全国平均や県平均を2～4ポイント上回っており、高齢化が進んでいることがうかがえます。

年齢（3区分）別人口の推移



注) 総人口には年齢不詳を含む（比率は年齢不詳を除いて算出）。

資料：国勢調査

年齢（3区分）別人口比率の国・県・利根沼田地域との比較（令和2年）

	全国	県	利根沼田地域	昭和村
年少人口 (%)	12.1	11.8	10.2	11.5
生産年齢人口 (%)	59.2	57.8	53.3	55.7
高齢者人口 (%)	28.7	30.4	36.6	32.8

注) 比率は年齢不詳を除いて算出。

資料：国勢調査

## (4) 就業構造

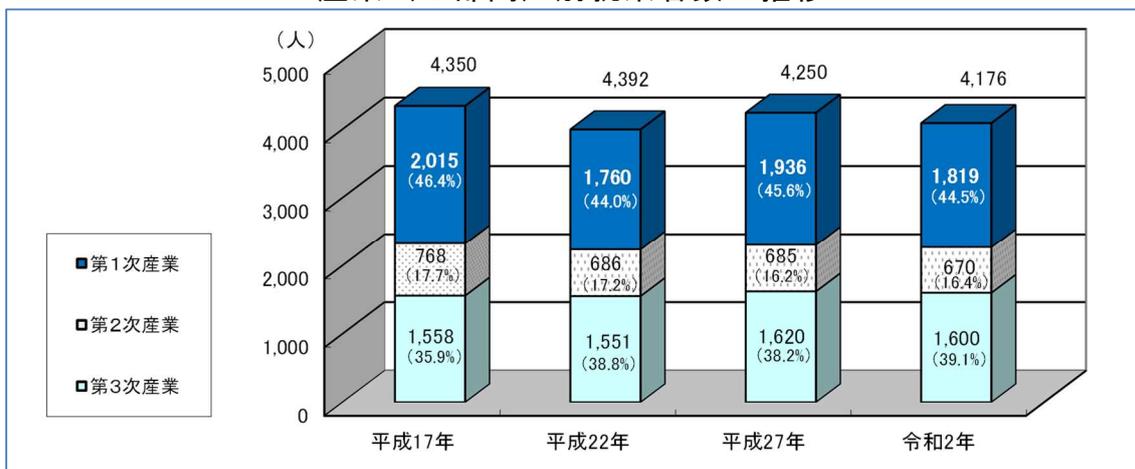
**第1次産業就業者の比率が最も高く、農業の村であることがあらためて認識される。**

本村の就業者総数（令和2年）は4,176人で、総人口の減少とともに減少傾向にあります。

産業（3部門）別の就業者数は次のとおりで、これまでの推移をみると、農業・林業などの第1次産業、建設業・製造業などの第2次産業、それ以外の卸売業・小売業、飲食サービス業などの第3次産業ともに減少傾向にあります。

それぞれの比率（令和2年）を国・県・利根沼田地域平均と比べると次のとおりで、第1次産業就業者の比率が目立って高く、3部門の中で最も高くなっており、農業の村であることがあらためて認識されます。なお、本村の農家は、大規模な耕地を有する専業農家が多いことが特徴となっています。

産業（3部門）別就業者数の推移



注) 就業者総数には分類不能を含む（比率は分類不能を除いて算出）。 資料：国勢調査

産業（3部門）別就業者比率の国・県・利根沼田地域との比較（令和2年）

	全国	県	利根沼田地域	昭和村
第1次産業 (%)	3.5	4.6	16.2	44.5
第2次産業 (%)	23.7	31.2	22.7	16.4
第3次産業 (%)	72.8	64.2	61.1	39.1

注) 比率は分類不能を除いて算出。

資料：国勢調査

## 2 生かすべき強み

### 1 美しい自然環境・景観

本村は、赤城山の裾野に広がる村で、日本百名山である武尊山や谷川連峰、榛名山などが見渡せ、美しく雄大な自然が息づくとともに、優れた眺望を誇ります。

また、片品川と利根川に沿って日本一美しいといわれている河岸段丘が形成され、赤城高原には、色とりどりの作物が実る広大な畑が一面に広がり、豊かな農村風景を生み出しています。

本村は、こうした自然環境・景観等の地域資源を守り、生かしていくため、「日本で最も美しい村」連合<sup>※1</sup>に関東地方で最も早く加盟しています。



印刷時に適切なものと差し替え。

### 2 おいしい農産物を生み出す農業

本村は、戦後、入植者によって開拓され、用排水施設の整備や区画整理等が行われてきた広大で肥沃な土地をはじめ、豊かな水や農耕に適した気候等を生かし、農業の村として発展してきました。

現在、村の総面積の約4割が畑となっており、様々な種類の野菜の生産、果樹・花きの栽培、畜産等が行われており、特に、こんにゃく芋は日本一の生産量を誇るほか、レタスやホウレンソウ、トウモロコシなども県内有数の生産量となっています。

本村は、こうした野菜の種類や生産量の多さ、そして東京圏へのアクセスのよさから、「やさい王国」・「首都圏の台所」と呼ばれています。



<sup>※1</sup> 失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観・文化を守りつつ、最も美しい村としての自立を目指す運動を行う連合組織。平成17年に7町村からスタートした。

### 3 東京圏等に近い立地条件

本村は、東京からおよそ 120 km 圏にあり、関越自動車道の昭和インターチェンジが設置されており、東京まで車で約 80 分と、東京圏へのアクセスが比較的容易な立地条件にあります。

また、みなかみ町にある上越新幹線上毛高原駅まで車で約 30 分、上毛高原駅から東京駅まで約 1 時間で、新幹線を利用した場合も東京まで約 90 分でアクセスできます。

さらに、利根沼田地域の中心都市である沼田市に隣接し、JR 上越線沼田駅や沼田市の中心部まで車で約 10 分と近く、沼田市の商業機能や生活サービス機能等を利用することも容易にできます。

また、こうした立地条件を背景に、村内の工業団地・工業用地には、様々な優良企業が進出しており、村の活力や住民の雇用を生み出しています。



### 4 貴重な文化遺産

本村は、かつて、養蚕業が盛んに営まれていた村であり、現在も、大型養蚕民家とそれに付属する土蔵などの歴史的な建造物が数多く残されています。

また、生越地区では、水利に恵まれなかったことから、明治時代に住民が横井戸を掘り、生活用水を確保してきました。その横井戸は今も残っています。

さらに、長井坂城跡、森下城跡、阿嵜城跡の 3 つの城跡があるほか、永井箱根神社の太々神楽などの無形文化財の保存活動も行われています。



## 5 充実した子育て環境

本村では、18歳までの子どもの医療費の助成や保育料の完全無料化等の経済的支援、保育サービスの充実、子育てに関する相談・学習・交流の場や学童クラブ、一時保育等の各種子育て支援サービスの充実など、どこよりも子育てしやすい村づくりを目指した取り組みを積極的に行っています。

令和6年度には、子育て支援の拠点として、「こども家庭センター※2」を設置し、すべての妊産婦、子育て世帯、子どもに対する一体的な相談支援等を行う体制を強化しています。



## 6 国内外の都市や企業との様々な交流・連携

本村では、国内交流として、横浜市や群馬県玉村町、茨城県取手市との交流事業を行っているほか、国際交流として、アメリカ合衆国オレゴン州イーグルポイント市との交流事業を行っています。

また、令和4年度に、総合エンターテイメント企業との包括連携協定を締結し、様々な連携事業を進めつつあります。

こうした交流・連携は、地域振興や人材育成をはじめ、本村の村づくりにとって重要な意味を持つものであり、今後の展開が期待されます。



※2 これまでの子育て世代包括支援センター（母子保健機能）と子ども家庭総合支援拠点（児童福祉機能）が一体となった、すべての妊産婦・子育て世帯・子どもへ総合的な相談支援等を行う機関。児童福祉法の改正により、各市区町村に設置することが努力義務とされている。

## 7 郷土愛の強い住民性

本村は、美しい自然環境・景観に包まれ、戦後の開拓や大規模な土地改良事業を経て発展してきた農業の村であり、古くから育まれ、受け継がれてきた開拓精神や住民の郷土を愛する心、あたたかさ、そして助け合いの精神の中で築かれた人と人とのつながりの強さは、これからの村づくりに生かすべき本村の優れた特性といえます。

本計画の策定にあたって実施したアンケート調査の結果においても、村に対して“愛着を感じている”という人が8割以上にのぼっています。



## 3 踏まえるべき社会情勢

### 1 加速する人口減少・高齢化

わが国では、産まれる子どもの数が毎年過去最少を更新し、これに伴い、人口減少もさらに加速しつつあります。また、高齢化も世界に類をみないスピードで進んでいます。

このような中、戦略的な人口減少対策や超高齢社会に即した環境づくりが引き続き国全体の大きな課題となっています。

### 2 高まる安全・安心への意識

地震やこれに伴う津波や土砂崩れ、線状降水帯の発生等による大規模な自然災害の頻発、特殊詐欺による被害の増加、子どもを巻き込む痛ましい交通事故の発生等を背景に、人々の安全・安心に対する意識がさらに高まってきており、日々の暮らしの安全の確保が強く求められています。

### 3 本格化する脱炭素社会への取り組み

地球温暖化がさらに深刻化し、世界的な脅威となっており、世界各国でGX<sup>※3</sup>の動きが本格化しています。

わが国においても、「2050 カーボンニュートラル<sup>※4</sup>」を宣言し、国をあげて脱炭素社会を実現する目標を掲げており、地方自治体においても、これを踏まえた取り組みが求められています。

※3 Green Transformation（グリーントランスフォーメーション）の略。温室効果ガスを発生させないエネルギーに転換することで、産業構造や社会・経済を変革すること。

※4 主として人間の活動によって排出される二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの排出量と、森林や植物が吸収する温室効果ガスの吸収量が等しくなること。

## 4 急速に進むデジタル化

多くの民間企業が、AI<sup>※5</sup>やロボットをはじめとするデジタル技術を活用し、生産・業務等の自動化・省力化を進めているほか、地方自治体においても、自治体DX<sup>※6</sup>が進められています。

こうしたデジタル化は、これからの社会に必要不可欠なものとして、あらゆる場面でその重要性が高まってきています。

## 5 厳しさを増す地方の産業・経済

人口減少・高齢化の進行等に伴う担い手の不足や高齢化、資材価格の高騰などを背景に、第1次産業従事者の減少、既存商店街の空き店舗の増加、企業の撤退といった状況がみられ、地方の産業・経済は厳しさを増しており、地域全体の活力の再生が大きな課題となっています。

## 6 求められる共生社会・多様性社会の実現

自然災害の発生や生活課題の多様化、地域コミュニティの衰退等を背景に、身近な地域でお互いに支え合いながらともに生きる共生社会の重要性が再認識されてきています。また、世界的に「ダイバーシティ<sup>※7</sup>」の考え方が浸透しつつあり、誰もがお互いの違いを認め合い、自分らしく暮らしていくことができる多様性社会の実現が求められています。

※5 Artificial Intelligence の略。人工知能。

※6 Digital Transformation (デジタルトランスフォーメーション) の略。デジタル技術を活用し、業務やサービス、組織をはじめ、様々な仕組みを変革すること。

※7 多様性を意味する言葉で、年齢や性別、障がいの有無、性的志向・性自認等といった様々な属性を持った人たちが、組織の中で共存している状態のこと。

## 7 重要性が高まる地方の自立と住民参画・協働

地方自治<sup>※8</sup>をめぐる情勢が大きく変化する中、これからの地方自治体には、自らの権限と財源によって、独自の政策を展開できる力、いわば「自立力」を強めることが求められ、そのためには、行財政運営の一層の効率化はもとより、住民や住民団体、民間企業等の参画・協働が必要不可欠なものとなってきています。

## 8 広がるSDGsの達成に向けた動き

世界各国でSDGs<sup>※9</sup>の達成に向けた動きが広がっており、わが国においても、持続可能な開発目標推進本部の設置のもと、積極的な取り組みを進めています。

地方自治体においても、これらの動きを踏まえ、目標達成を視野に入れながら、各種の行政活動に取り組むことが求められます。

### SDGsの17の目標



※8 都道府県や市区町村が、自らの判断と責任で地域行政を行うこと。

※9 Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標で、17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されている。

## 4 反映すべき住民ニーズ

本村では、計画策定への住民参画、住民ニーズの反映を重視し、令和5年度に、住民アンケート調査（18歳以上の住民1,000人）を無作為に抽出して班長による配布・回収で実施。有効回収数858、有効回収率85.8%）を実施しました。

その結果の中から、代表的な設問結果を抜粋すると、次のとおりです。

### ① 村への愛着度と今後の定住意向

#### ■村への愛着度

“愛着を感じている” 82.8%（前回85.5%）

“愛着を感じていない” 16.6%（前回14.0%）

#### ■今後の定住意向

“住み続けたい” 81.0%（前回84.4%）

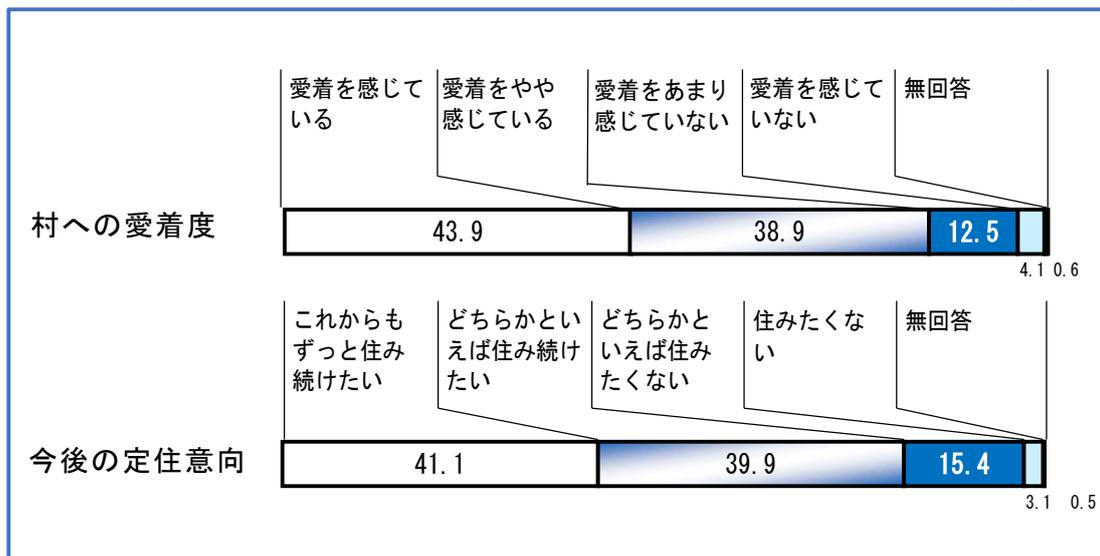
“住みたくない” 18.5%（前回15.0%）

村への愛着度と今後の定住意向については、ともに8割以上の人が“愛着を感じている”・“住み続けたい”と答えていますが、前回（令和元年度実施）と比べると、ともにわずかに低下しています。

また、年齢別で見たところ、30代以下の若い世代が目立って低くなっており、若い世代の愛着度・定住意向をいかに高めていくかが今後の課題の一つといえます。

村への愛着度と今後の定住意向

(単位：%)



## ② 村の各環境に関する満足度

---

### ■満足度が高い項目

- 第1位 水道の整備状況
- 第2位 下水道の整備状況
- 第3位 消防・救急体制
- 第4位 保健サービス提供体制
- 第5位 景観の状況

### ■満足度が低い項目

- 第1位 路線バスの状況
  - 第2位 定住促進対策の状況
  - 第3位 商業振興の状況
  - 第4位 雇用対策の状況
  - 第5位 住宅施策の状況
- 

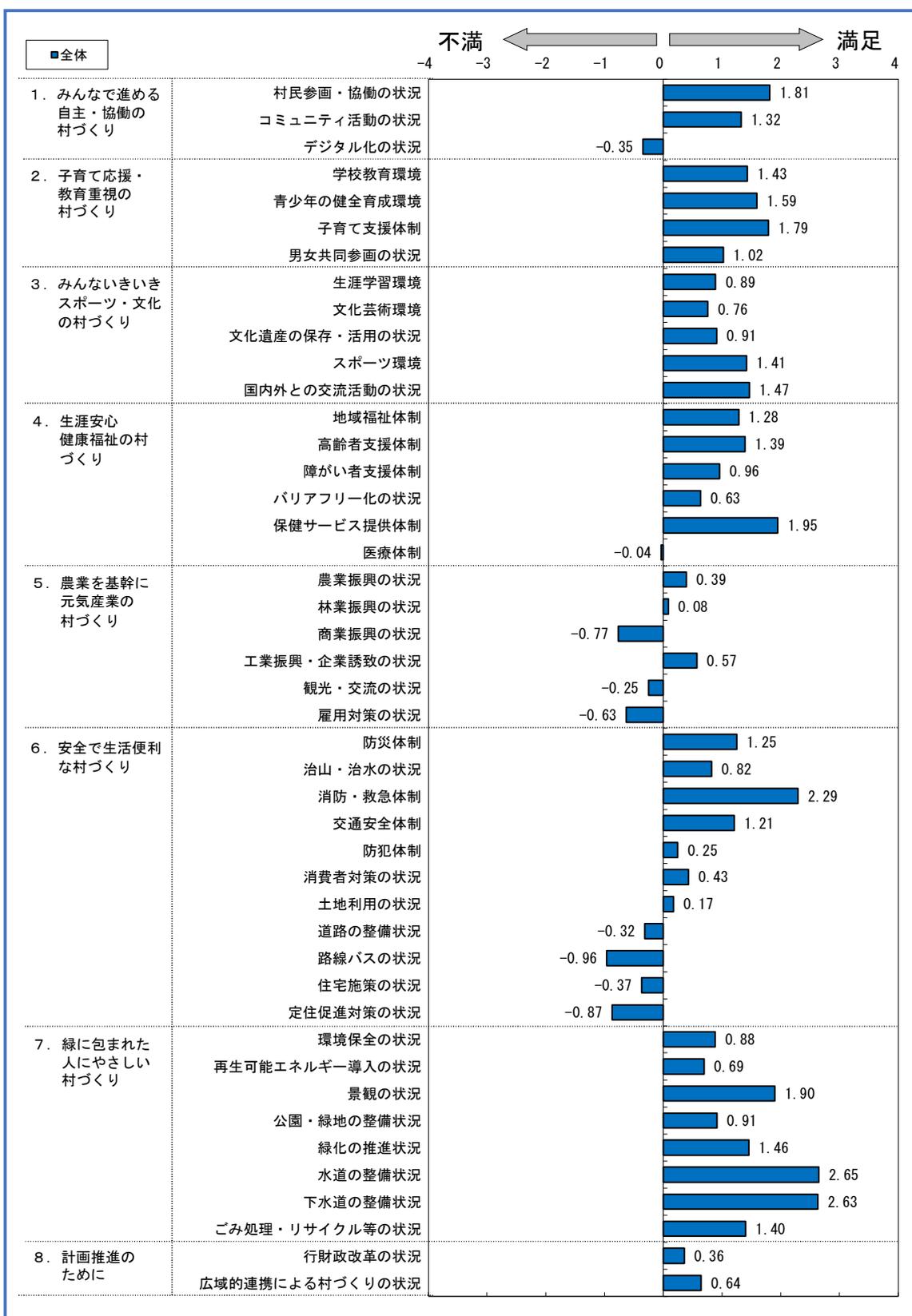
村の各環境（8分野 45項目）について、「満足している」から「不満である」までの5段階で評価してもらい、点数化しました。

その結果、水道・下水道や景観などの生活環境分野をはじめ、ほとんどの分野の満足度が高い一方で、路線バスや定住促進対策、住宅施策などの生活安全・生活基盤分野（特に生活基盤関連）、商業や雇用対策などの産業分野の満足度が低く、これらに課題を残しているといえます。

なお、全項目（45項目）のうち、満足度がプラス評価の項目が8割（36項目）にのぼり、環境の多くに満足している様子がかがえませんが、前回と比べると、満足度は全体的にわずかに低下しています。

### 村の各環境に関する満足度

(単位：評価点)



### ③ 村の各環境に関する重要度

#### ■重要度が高い項目

- 第1位 医療体制
- 第2位 防災体制
- 第3位 防犯体制
- 第4位 道路の整備状況
- 第5位 消防・救急体制
- 第6位 ごみ処理・リサイクル等の状況
- 第7位 子育て支援体制
- 第8位 学校教育環境
- 第9位 治山・治水の状況
- 第10位 交通安全体制

満足度と同じ各環境（8分野45項目）について、「重視している」から「重視していない」までの5段階で評価してもらい、点数化しました。

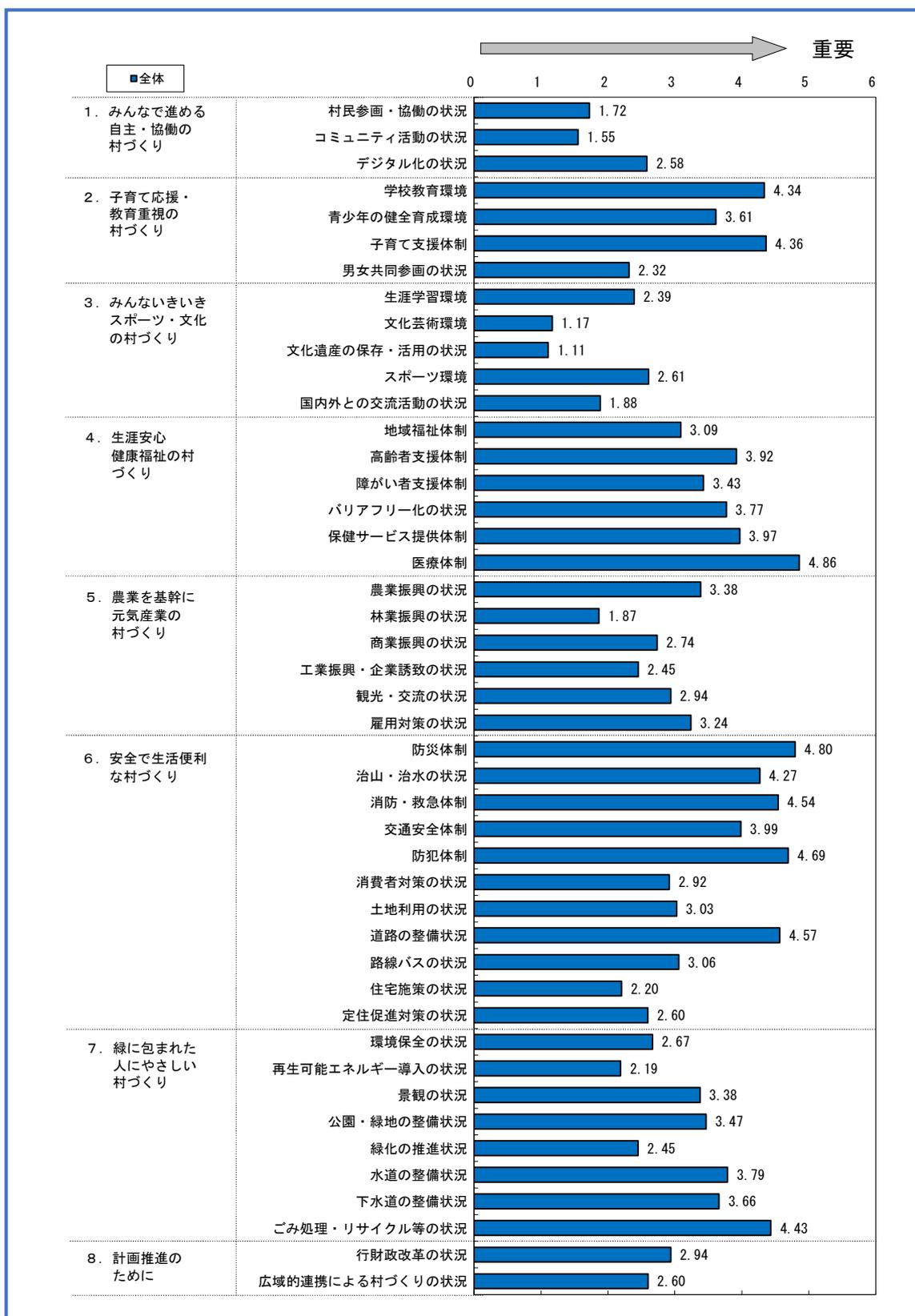
その結果、医療や防災、防犯、道路、消防・救急、ごみ処理、子育て支援、学校教育、治山・治水、交通安全に関する重要度が高くなっています。

これら上位10項目をみると、生活安全・生活基盤分野の項目が6項目（防災、防犯、道路、消防・救急、治山・治水、交通安全の生活安全関連）、子育て・子どもの教育分野の項目が2項目（子育て支援、学校教育）、保健・医療・福祉分野の項目が1項目（医療）、生活環境分野の項目が1項目（ごみ処理）で、“災害や犯罪・事故に対する安全性の確保”をはじめ、“子育て環境・学校教育環境の充実”、そして“医療体制の充実”、“ごみ処理体制の充実”が重視されていることがうかがえます。

前回と比較すると、上位10項目の内容は同様であり、住民が重視する環境はほぼ変わっていませんが、「医療体制」と「定住促進対策の状況」を重視する率が高まっていることが特徴としてあげられます。

## 村の各環境に関する重要度

(単位：評価点)



## ④ 今後どのような村にしたいか

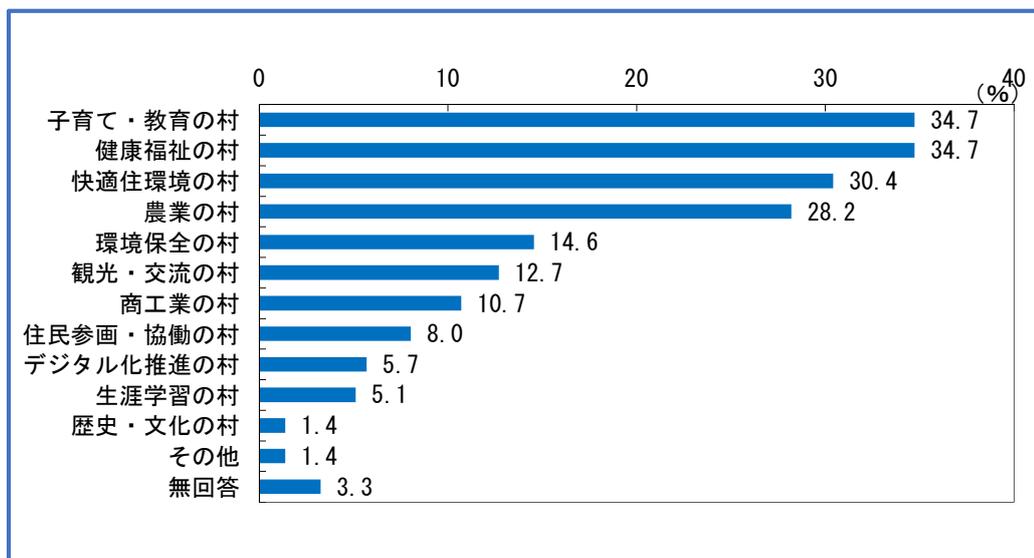
### ■ 今後どのような村にしたいか

- 第1位 子育て・教育の村
- 第1位 健康福祉の村（同率1位）
- 第3位 快適住環境の村
- 第4位 農業の村

今後どのような村にしたいかについては、「子育て・教育の村」と「健康福祉の村」が同率で第1位、続いて「快適住環境の村」、「農業の村」で、これらは他を引き離しており、「子育て環境・教育環境の充実」と「保健・医療・福祉の充実」をはじめ、「安全で快適な居住環境の整備」、「農業を中心とした村づくり」を望む人が多いことがうかがえます。

前回と比較すると、上位4位の内容は同様に、これら4つが引き続き望まれていることがうかがえますが、順位をみると、「子育て・教育の村」が前回第3位から今回第1位（同率）に順位を上げており、「子育て環境・教育環境の充実」を望む人が増えていることがうかがえます。

今後どのような村にしたいか



## 5 村づくりの課題

本村の強みや社会情勢、住民ニーズ等を総合的に勘案し、これからの村づくりの主要な課題をまとめると、次のとおりです。

### (1) 最重要課題

#### 人口減少の抑制による活力ある昭和村の維持

人口減少が加速し、すべての分野で担い手が不足し、村全体の活力の低下が懸念される中、本村の最重要課題は、「人口減少を抑制し、将来にわたって活力ある昭和村を維持していくこと」です。

住民がずっと住み続けたい、いつかは戻ってきたい、子どもを産みたいと思う村づくり、村外の人に移り住みたいと思う村づくりを進めていくためには、少子化対策や移住対策などの特定の取り組みだけでなく、幅広い分野における様々な取り組みを一体的に進め、本村の魅力や住みやすさを総合的に高めていく必要があります。

### (2) 分野別の課題

#### 1 子育て支援の充実と特色ある教育行政の推進

少子化が進み、産まれる子どもの数が年々減っていく中、また、学校教育に対する関心がますます高まる中、“子育て環境・教育環境の充実”を求める住民ニーズが強く、アンケート調査の『今後どのような村にしたいか』において、「子育て・教育の村」が第1位（同率1位）となっています。

このため、充実した子育て環境等をさらに生かしながら、子育て支援の一層の充実を図るとともに、小中学校の統合をはじめ、未来を担う人材の育成に向けた学校教育環境の充実、住民主体の学習・文化・スポーツ活動の活発化を進めていく必要があります。

## 2 地域に密着した保健・医療・福祉体制の整備

全国平均や県平均よりも高齢化が進む中、“保健・医療・福祉の充実”を求める住民ニーズが強く、アンケート調査の『今後どのような村にしたいか』において、「健康・福祉の村」が第1位（同率1位）となっているほか、『村の各環境に関する重要度』において、「医療体制」が第1位となっています。

このため、これまで整備してきた保健・福祉環境や、郷土愛や人と人とのつながりの強い住民性等をさらに生かしながら、地域に密着した保健・医療体制や福祉・介護体制の整備を図り、すべての住民が支え合いながら健康で幸せに暮らすことができる環境づくりを進めていく必要があります。

## 3 環境保全と安全性を重視した生活環境の整備

地球温暖化がさらに深刻化する中、脱炭素社会の実現に向けた積極的な取り組みが求められています。

また、安全・安心への意識が高まる中、“安全で快適な住環境の整備”や“災害や犯罪、事故に対する安全性の確保”を求める住民ニーズが強く、アンケート調査の『今後どのような村にしたいか』において、「快適住環境の村」が第3位となっているほか、『村の各環境に関する重要度』において、「防災体制」、「防犯体制」、「消防・救急体制」が上位5位の中にあげられています。

このため、美しい自然環境・景観や貴重な文化遺産との共生を基本に、環境にやさしい村づくり、あらゆる危機に強い村づくりを推進し、誰もが住みたくなる生活環境の整備を進めていく必要があります。

## 4 農業を柱とした持続可能な産業の育成

本村は、特色ある農業の村であり、“農業を中心とした村づくり”を求める住民ニーズが強く、アンケート調査の『今後どのような村にしたいか』において、「農業の村」が第4位となっています。

また、地方の産業・経済が低迷する中、本村においても、各産業を取り巻く状況は厳しく、アンケート調査の『村の各環境に関する満足度』において、産業分野の項目の満足度が低くなっています。

このため、特色ある農業の村としての特性や東京圏等に近い立地条件等をさらに生かしながら、基幹産業である農業を柱に、将来にわたって持続可能な産業の育成を進めていく必要があります。

## 5 未来を見据えた生活基盤の整備

本村が、人口減少を抑制し、将来にわたって活力を維持していくためには、これまでみてきた子育て・教育環境の充実、保健・医療・福祉体制の整備、生活環境の整備、産業の育成はもとより、それらを支える生活基盤の整備が必要です。

しかし、アンケート調査の『村の各環境に関する満足度』において、「路線バスの状況」、「定住促進対策の状況」、「住宅施策の状況」といった生活基盤関連の項目の満足度が低くなっています。

また、デジタル化が急速に進む中、本村においても、住民サービスの向上と地域活性化に向け、AIやロボットをはじめとするデジタル技術を有効に活用していくことが求められます。

このため、東京圏等に近い立地条件等をさらに生かす視点に立ち、道路・公共交通の充実やデジタル化をはじめ、未来を見据えた生活基盤の整備を進めていく必要があります。

## 6 住民力の結集と行財政運営のさらなる効率化

社会情勢の変化に伴いますます増大・多様化する行政ニーズに的確に対応しながら、自立した村を創造し、将来にわたって持続させていくためには、住民の力をさらに結集するとともに、行財政体制を一層強化していくことが求められます。

しかし、アンケート調査の『村の各環境に関する満足度』において、「行財政改革の状況」や「広域連携による村づくりの状況」といった行財政分野の項目の満足度が低くなっています。

このため、郷土愛や人と人とのつながりが強い住民性等をさらに生かしながら、地域コミュニティの活性化、住民や住民団体、民間企業等の多様な主体の力を結集した協働の村づくりを進めるとともに、組織や事務事業の見直し、公共施設の総合的な維持管理をはじめ、行財政運営のさらなる効率化を進めていく必要があります。

# 基本構想

# 第1章 昭和村の将来像

## 1 村づくりの基本姿勢

総論を踏まえ、これからの村づくりにおいて、すべての分野にわたって基本とする姿勢を次のとおり定めます。

1

### 『子ども』を大切にする。

村全体で子どもと子育て世帯を応援する取り組みを一層積極的に推進し、一人でも多くの子どもが生まれ、未来の昭和村を担う人材として健やかに育つ村づくりを進めます。

2

### 『やさしさと美しさ』を守り育てる。

すべての住民が健康で幸せに暮らすことができる、人にやさしい村づくりを進めるとともに、優れた自然環境・景観と共生する、美しく安全な村づくりを進めます。

3

### 『農業』を柱に産業・経済を支える。

暮らしの基盤となる産業・経済の維持・発展を重視し、農業を柱に、多様な産業活動を積極的に支援し、住民が経済的に豊かに暮らすことができる村づくりを進めます。

4

### 『住民主体』で進める。

住民一人ひとりの暮らしを尊重し、住民主体の活動を積極的に支援するとともに、住民同士のつながり、住民と行政とのつながりを強め、住民主体の村づくり、住民と行政との協働の村づくりを進めます。

## 2 将来像

将来像は、本村が 10 年後に目指す姿を村内外に示すものであり、本村にかかわるすべての人々の共通目標となるものです。

今後、本村は、すべての分野において、美しい自然環境・景観や農業をはじめとする本村の強みを最大限に生かしながら、『子ども』・『やさしさと美しさ』・『農業』を大切にしたい村づくりを『住民主体』で進めます。

そして、これらのことによって、本村のことがさらに好きになり、ずっと住み続ける住民、一度出ても戻って来る住民、子どもを産む住民が増えるとともに、村外からの移住者も増え、多くの人々が幸せに暮らし、人も自然も産業も、すべてが輝く村になることを目指し、将来像を次のとおり定めます。

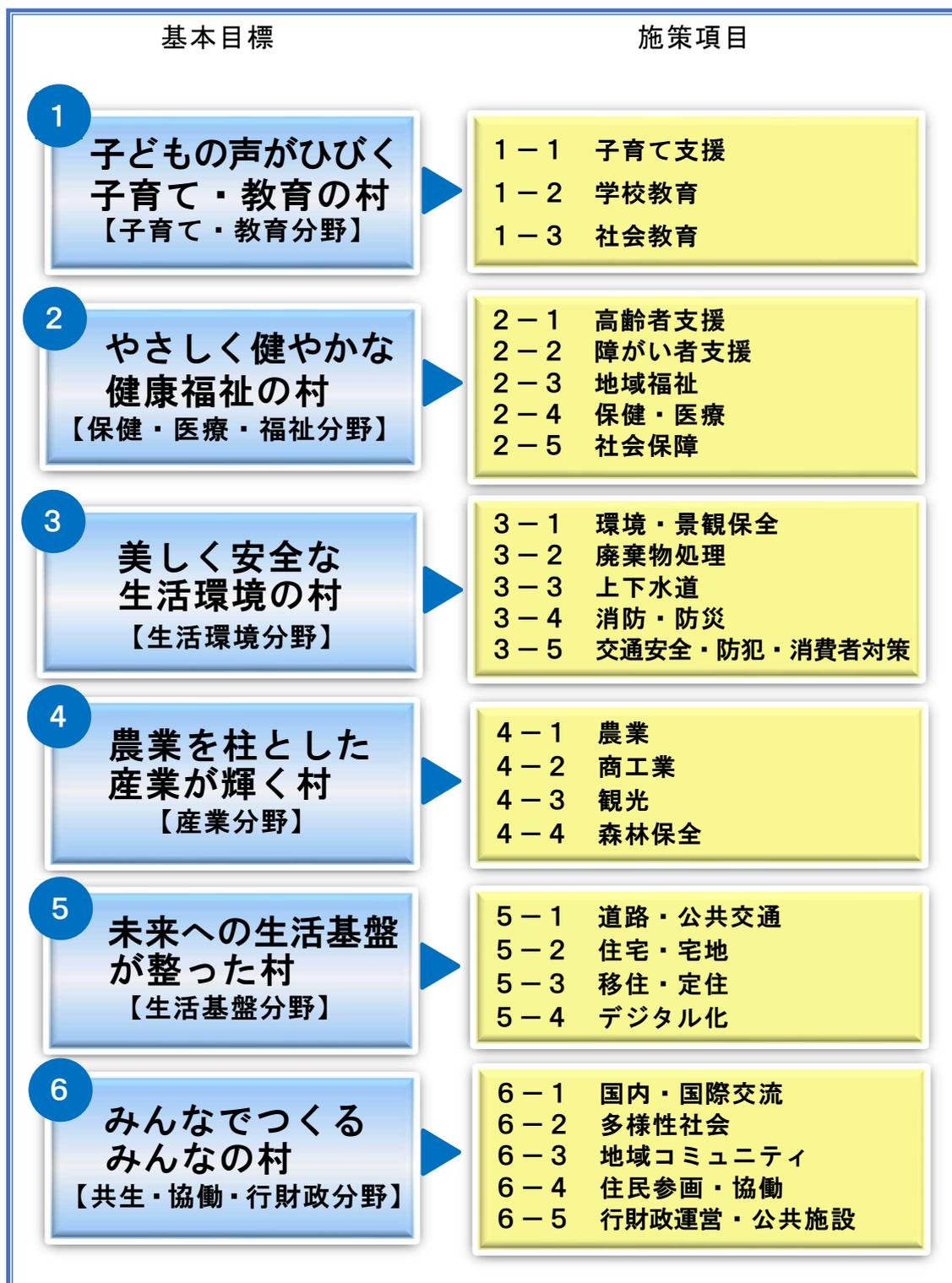
### とものつくろう 輝く昭和村



## 第2章 計画の体系と方針

### 1 計画の体系

将来像の実現に向け、計画の体系を次のとおり定めます。



## 2 基本目標ごとの方針

### (1) 子どもの声がひびく子育て・教育の村【子育て・教育分野】

- 1-1 子育て支援
- 1-2 学校教育
- 1-3 社会教育



子どもが一人でも多く生まれ、健やかに育つよう、結婚に関する支援を行うとともに、「こども家庭センター」を拠点に、妊娠・出産・子育てに至る切れ目のない支援を一層推進します。

また、子どもたちが、これからの社会を生き抜く力を身につけ、未来を担う人材として成長していくことができるよう、小中一貫教育を進めるとともに、教育内容の充実や地域との連携強化を図ります。

さらに、住民が生涯にわたって学び、その成果を地域社会づくりに生かすことができる学習環境の整備、住民主体の文化・スポーツ活動の促進、有形・無形の貴重な文化財の保存・活用を進めます。

### (2) やさしく健やかな健康福祉の村【保健・医療・福祉分野】

- 2-1 高齢者支援
- 2-2 障がい者支援
- 2-3 地域福祉
- 2-4 保健・医療
- 2-5 社会保障



高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、福祉・介護サービスの充実に努めるとともに、誰もが自分のこととして支え合い助け合う地域福祉活動の促進に努めます。

また、住民一人ひとりが生涯にわたって健康で幸せに暮らすことができるよう、住民の健康管理意識の高揚と自主的な健康づくり活動の促進を基本に、疾病の発症予防と重症化予防に向けたきめ細かな保健サービスの提供を図るとともに、広域的連携のもと、地域医療の維持・充実に努めます。

さらに、国民健康保険・国民年金等の制度周知と適正運営に努めます。

### (3) 美しく安全な生活環境の村【生活環境分野】

- 3-1 環境・景観保全
- 3-2 廃棄物処理
- 3-3 上下水道
- 3-4 消防・防災
- 3-5 交通安全・防犯・消費者対策



本村ならではの美しい自然環境・景観の維持、脱炭素社会の実現、そして誰もが住みたくなる快適な生活環境の整備に向け、再生可能エネルギーの活用をはじめとする総合的な環境・景観保全施策の推進、広域的なごみ処理体制の充実とごみの減量化・資源化の促進、上下水道事業の効率化、合併処理浄化槽の普及促進を図ります。

また、あらゆる危機に強い安全・安心な村づくりを進めるため、全国的に頻発する大規模な自然災害から得た教訓を生かし、消防・防災体制の一層の強化を図るほか、高齢化の進行等の近年の環境変化を踏まえた交通安全・防犯・消費者対策を推進します。

### (4) 農業を柱とした産業が輝く村【産業分野】

- 4-1 農業
- 4-2 商工業
- 4-3 観光
- 4-4 森林保全



本村の基幹産業であり、村づくりの中心を担う農業の維持と新たな展開に向け、多様な担い手の育成や農業生産基盤の充実、スマート農業<sup>※10</sup>の促進をはじめ、多面的な農業振興施策を推進します。

また、商工業の振興に向け、商工業事業所の経営の継続・安定化を支援していくほか、起業の支援や新たな企業の誘致に努めます。

さらに、観光客の増加による地域経済の活性化、観光から移住への展開を視野に入れ、道の駅「あぐりーむ昭和」の観光機能の強化や観光関連イベントの充実等を進めます。

森林については、水源のかん養や山地災害の防止等の多面的機能の維持・発揮に向け、適正な管理・整備を促進します。

※10 デジタル技術を活用し、超省力化や高品質生産等を可能にする農業。

## (5) 未来への生活基盤が整った村【生活基盤分野】

5-1 道路・公共交通

5-2 住宅・宅地

5-3 移住・定住

5-4 デジタル化



住民の利便性・安全性の向上、村全体の活性化に向け、県道の整備要請及び村道の整備を進めるほか、路線バスの維持・存続、住民ニーズに応じたデマンドバスの運行の充実と利用促進に努めます。

また、安全・安心・快適な住生活の基盤として、借上賃貸住宅の取り組みの継続、宅地の造成・販売等を進めるほか、これらの住宅施策と連動し、空き家バンクや移住相談の充実、経済的支援の推進など、移住・定住を直接的に支援する施策を推進します。

さらに、住民サービスの向上と地域活性化に向け、行政及び地域におけるAIやロボットの活用などデジタル化を進めます。

## (6) みんなでつくるみんなの村【共生・協働・行財政分野】

6-1 国内・国際交流

6-2 多様性社会

6-3 地域コミュニティ

6-4 住民参画・協働

6-5 行財政運営・公共施設



地域活性化や人材の育成を目指し、友好交流協定を結んでいる横浜市をはじめとする国内外の地域との交流を進めるほか、性別や性自認、国籍、価値観等にかかわらず、誰もがお互いの違いを認め合い、ともに生きる多様性社会の実現に向け、意識啓発や社会環境の整備を進めます。

また、支え合う地域づくり、住民主体の地域づくりに向け、行政区の自主的な活動を支援していくとともに、多様な主体の力を結集した村づくりに向け、住民や住民団体、民間企業等の参画・協働を促進します。

さらに、自立可能・持続可能な村の創造を目指し、組織や事務事業の見直しをはじめ、さらなる行財政改革を推進するとともに、公共施設について、老朽化に伴う大規模改修や建て替え等は、費用対効果を考慮し計画的に進めます。

昭和村第6次総合計画「SHOWA未来プラン2034」総論・基本構想の構成

